文化・芸術

名画の扉

第33回移動大川美術館展
「追悼・掛井五郎版画展」から

「春」
1990年、コラグラフ、ハーネミューレ紙
89・0㌢×56・5㌢（作者寄贈）

掛井五郎（1931～2021年）

「人間」をひたすら探究し続けた彫刻家・掛井五郎の版画は、軽みや遊びがにじみます。1991～95年には、桐生に住みノコギリ屋根の織物工場のアトリエで旺盛な制作が行われました。100坪のアトリエ内外には、ブロンズに加え、油彩画や素描、彫刻の試作であるさまざまな素材によって生み出されたマケット群が、個々に命を宿すようにあふれていました。桐生の方の中には、そんな掛井アトリエの熱気を目撃してきた方も少なくないはずです。

今年の移動大川美術館展は、2021年11月に91歳で逝去した掛井五郎の版画作品を中心にご覧いただきます。掛井はかつて桐生という場所について次のように述べています。「私にとって芸術の聖域であった。街全体が美術館だった」「創作の桃源郷」「草や木や雲や風から多くを学んだ」と。市民文化会館の展示室で、掛井五郎の生命感みなぎる作品世界をどうぞご堪能ください。（小此木）

※移動展は、桐生市市民文化会館（美喜仁桐生文化会館）展示室で16日から21日まで。